

めんどりちゃん (Henny-Penny)

ある日、めんどりちゃんが、庭で麦の粒をつついで食べていると、頭にボタンと何かが落つちてきました。めんどりちゃんは、「まあたいへん。お空が落つちてきたわ。王さまにお知らせしなくちゃ」とさけんで、走りだしました。

めんどりちゃんが、どんどん、どんどん、どんどん走つていくと、おんどりちゃんに会いました。

「めんどりちゃん、どこ行くの」と、おんどりちゃんがききました。

「お空が落つこちてきたから、王さまに知らせに行くの」と、めんどりちゃんは答えました。すると、おんどりちゃんは、

「ぼくもいつしょに行つていい」とききました。

「めんどりちゃん」と、めんどりちゃんはいいました。そこで、めんどりちゃんとおんどりちゃんは、いつしょに走つていきました。

どんどん、どんどん、どんどん走つていくと、あひるちゃんに会いました。

「めんどりちゃんにおんどりちゃん、どこ行くの」

「お空が落つちてきたから、王さまに知らせに行くの」

「わたしもいつしょに行つていい」

「もちろんよ」

そこで、めんどりちゃんとおんどりちゃんとあひるちゃんは、いつしょに走つていきました。

どんどん、どんどん、どんどん走つていくと、がちようちやんに会いました。

「めんどりちゃんにおんどりちゃんにあひるちゃん、どこ行くの」

「お空が落つちてきたから、王さまに知らせに行くの」

「わたしもいつしょに行つていい」

「もちろんよ」

そこで、めんどりちゃんとおんどりちゃんとあひるちゃんとがちようちやんは、いつしょに走つていきました。

どんどん、どんどん、どんどん走つていくと、しちめんちようちやんに会いました。

「めんどりちゃんにおんどりちゃんにあひるちゃんにがちようちやん、どこ行くの」

「お空が落つちてきたから、王さまに知らせに行くの」

「ぼくもいつしょに行つていい」

「もちろんよ」

そこで、めんどりちゃんとおんどりちゃんとあひるちゃんとがちようちやんとしちめんちようちやんは、いつしょに走つていきました。

どんどん、どんどん、どんどん走つていくと、きつねどんに会いました。

「めんどりちゃんにおんどりちゃんにあひるちゃんにがちようちゃんにしちめんちようち
やん、どこ行くの」

「お空が落つこちてきたから、王さまに知らせに行くの」

すると、きつねどんはいました。

「じゃあ、道を間違えてるよ。ぼくが、教えてあげようか」

「ええ、もちろんよ」

そりで、めんどりちゃんとおんどりちゃんとあひるちゃんとがちようちゃんとしちめん
ちようちゃんは、きつねどんの後について走っていきました。

どんどん、どんどん、どんどん走つていくと、せまくて暗い穴にやつて来ました。そり
は、きつねどんのうちの入り口でした。けれども、きつねどんはいました。

「ハハは王さまのお城へ行く近道なんだ。ぼくについておいで」

「ええ、もちろんついていくわ」と、めんどりちゃんとおんどりちゃんとあひるちゃんと
がちようちゃんとしちめんちようちゃんはいました。

きつねどんは、先に穴に入つていきました。そして、すぐにふり向いて、みんなが入つ
てくるのを待ちかまえました。

まつさきに入つてきたのは、しちめんちようちゃんでした。きつねどんは、しちめんち
ようちゃんの頭をがぶつと食べて、からだをぽいっと横に投げました。

つぎに入つてきたのはがちようちゃんでした。きつねどんは、がちようちゃんの頭をが
ぶつと食べて、からだをぽいっと、しちめんちようちゃんのとなりに投げました。

つぎに入つてきたのはあひるちゃんでした。きつねどんは、あひるちゃんの頭をがぶつ
と食べて、からだをぽいっと、しちめんちようちゃんとがちようちゃんのとなりに投げま
した。

つぎに入つてきたのは、おんどりちゃんでした。きつねどんは、おんどりちゃんの頭を
がぶつと食べようとして、失敗しました。おんどりちゃんは、わけびました。

「逃げる、めんどりちゃん」

めんどりちゃんは、くるりと回れ右をして、どんどん、どんどん、どんどん、逃げて帰
りました。

それで、めんどりちゃんは、お空が落つこちてきたことを王さまにお知らせできません
でしたとや。

おしまい

原話：『English Fairy Tales』 JOSEPH JACOBS

再話：村上郁 ©